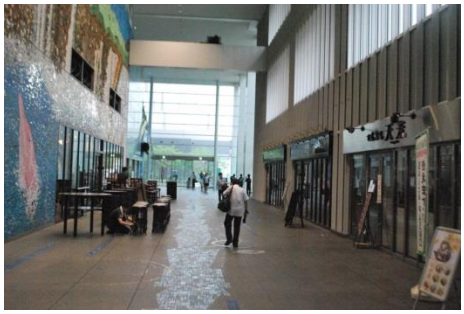
2015年下半期　③「さんりく未来推進センター」活動報告

《7月・８月・９月》

７月３日（金）

９時から１０時半まで、秋葉原の富士ソフト本社。７月下旬の「物産展」会場下見と、ここの社会貢献Ｓさんと色々情報交換。「田野畑村」 がキーワード。



１０時５０分から１２時半までは、神田駿河台、カザルスホールで定例打ち合わせ。その後、３時半まで、常任監査役と初対面なので、食事をし ながら、意見交換。

７月４日（土）

新橋駅から「ゆりかもめ」竹芝駅徒歩２分の都立産業貿易センター。

復興庁主催**「新しい東北ミーティングイン東京」**。

オープニング講演は、竹下亘復興大臣の「内容に無い」、つまり「気持ちの入らない」挨拶にも拍手はあったが､次に登壇したキリンの３年間で６０億を供出し て多方面への支援活動は圧巻。次に日本ＩＢＭ。ＮＥＣ、ベネッセの役員・担当部長からの各社各様の取り組み紹介。

さらに、「リレートーク」「大学生ボラン ティア・ワールドカフェ」「ワークショップ：企業における復興支援」などに加え、ブース展示やパネル展示と盛りだくさん。良かった点、参考になった点は数 あれど、特に、といえば、以下２点。

①**「さんりく未来推進センター」絡み**ー私の長年の妄想からの「短期滞在型」全国の１万人以下の「人口減少・高齢化」著しい町・村への大都市圏の団塊の世代 のデラシネ的漂流ライフスタイルの提唱に、展示ブースの某大手旅行会社が「異常な興味」を示し、提携企業として、来週以降、本部に来る見込みとなったこと。

②**「和光３・１１を忘れない」絡み**ー今年３月「和光３・１１」イベント レポートをＨＰに掲載頂いた｢文化芸術による復興推進コンソーシアム｣の担当者と初顔合わせ。これまで、お互い、メールのやりとりだったので、「ああ、あ なたが」と打ち解け、来年は結果のレポートだけで

なく、事前のイベント告知も掲載しますよ、と言われ、さらに、なぜか仲が良い、と言う上記①の旅行業マネージャーを紹介してくれたこと。
このほか、既知のＮＥＣネッツアイエスの震災担当部長始め、福島、宮城、岩手の各大学関係者や県関係者などと名刺交換も出来、色々なコ・ワークの可能性が閃いた。４時半終了。

７月８日（水）

１時からスカイプ会議。久慈市や洋野町のＩＴ関連業者などが集まり、会計ソフトの使い方説明と、互いの交流を深める「カフェ」。参加者１３名。冒頭にこちらの紹介を頂いたあとは、ずっと参加者の自己紹介や会計ソフト会社の説明を１時間半、見ながら聞く。

７月１０日（金）

立教大学へ。１時。**「陸前高田ＮＰＯキャラバンｉｎ東京」**。
まず、「月命日」。全員起立し、黙祷。それから、３・１１の津波のビデオが短時間流れ、次に地元紙「東海新報」の直後から、今年３月１１日発行までの新聞一面が次々。「復興はほど遠い」。そして、いよいよオープニング。

実行委員長挨拶。そして、戸羽陸前高田市長の基調講演。「８年間の復興計画の折り返し」。全て失ったことは、これまでのしがらみや古い習慣・秩序も破壊さ れたので、新たな町を作るには、新たなスタイルが必要。具体的には、①観光体験（特に防災教育）②ノーマライゼーション（特に外国人対応）で、かつて年間 １００万人以上が、ようやく２０万人になった観光客の誘致にＮＰＯと行政が手を携え、町の再生へ向かいたい。
次は、NPO 団体代表らのパネルディスカッション２つ。
①地域コミュニティの再生。まず、そもそも３・１１以前からの「少子高齢化」の地域。若い人は、外 へ。働き場がない。市といっても、３・１１前の２万４千が現在２万。２５年後には１．３万の予測。特に女性が出たきり、戻らず、嫁を待つ男性が多い。３・ １１以降、多くの市民は、３回のコミュニティを経験。避難所、仮設住宅、そして、自宅や災害復興住宅への引っ越し。これらの課題を各ＮＰＯ独自の分野で 色々やっている報告。

次に②「リピーター・ファンの獲得」。登壇メンバーが変る。関東の学生らが立ち上げたグループは、「民泊」探し、陸前高田のミニコミ誌を作っていたリー ダーが立ち上げた「観光案内」は、団体誘致。それに元ＩＴ会社社員は、農業、ＩＴ、若者事業の３本柱で１次産業衰退への対応。

さて、そのあとは、会場に１１のＮＰＯグループが分かれ、それぞれ１５分の「フリートーク」タイムを６回。私は、「短期定住」型構想に近いグループを渡り歩き、質問や名刺交換。
会場の運営スタッフやＮＰＯメンバー、そして参加者も、２０代、３０代の若者が主力。立教大だけでなく、中大ゼミメンバーは、女性教授も学生も「テーマの 陸前高田、３・１１とは関係ない」ヴェトナム研究の揃いのＴシャツ。会場の参加者も、大半が３・１１以降、陸前高田へ訪問した経験者で、中には１０回以上 訪問した人も１割。ＮＰＯには陸前高田に移住したよそ者（鳥取、千葉、群馬、茨城・・・）のメンバーが多い。

今回のイベントは、誰も知っている人がいない、と思い、参加したが、いつも「さんりく未来」活動で連携しているＮＥＣネッツアイエスの方々、特に陸 前高田の「ひまわりハウス」のリーダーは高校教師の次男連れ。さらに、先日の復興庁イベントで知り合い、来週金曜日に打ち合わせする大手旅行会社の方も バッタリ。双方を引き合わせ、名刺交換。ついでに市長との写真もパチリ！この市長、どこか、かつての長野県知事だった、田中某に似ている。

最も印象的だったのが、ポスターやプログラム、チケットなどに使われていた「絵」。このおかげでイベント自体のステイタスが格段に上がった。これは、知的障害のある子供も教育環境を変えようと、母親の実家、陸前高田へ埼玉から引っ越してきた両親の愛情の表現でもある。私は、何も 知らずに会場で絵葉書を購入、あとで、この作家田﨑飛鳥さんのこと、そして、陸前高田の「ひまわりハウス」で昨年夏、個展が開かれたことも知った。津波で作品や絵の具も流され、近所の８世帯で１０人もの方が亡くなったショックから立ち直り、暖かな画風の絵を再び描くようになった、という。

７月１４日（火）

９時からの飯田橋の NEC ﾈｯﾂｱｲｴｽ本社での提携４社９人、陸前高田の「ひまわりハウス」もつなぐテレビ会議。

４時間、白熱の論議のあと、同社のＩＴ技術を使った「飛び道具装置」のいくつかを拝見。「面白い」企画が出来そう。そして、これは、もう被災地支援の枠に収まらず、ローカルな「少子高齢化」ですでに人口減少の全国の再生パッケージとして、みんなが喜ぶビジネスになりそう。
午後３時から５時２０分まで、「７月３１日、８月１日」秋葉原での岩手三陸物産展のスカイプ打ち合わせ。今度は、自宅のパソコン相手に、九州、埼玉、宮古、釜石の４元中継。便利、便利。おかげで、細かな懸案もどんどん話がまとまる。

７月１７日（金）

１０時、日大カザルスホール前で来客待ち合わせ。目の前は明大高層校舎。後ろは、私も仕事した会社。１０時から１２時近くまで会議。主に「２地域就労」「２地域居住」について。

７月２１日（火）

１０時から宮古、釜石、大分、そして朝霞の４元スカイプ会議。
３１日（金）～８月１日（土）「さんりくチャレンジ倶楽部」の岩手三陸物産販売について の具体的な打ち合わせ。
①今月３１日午前１１時～１４時は秋葉原駅徒歩２分の、モダンな高層ビルの「富士ソフト」本社（千代田区神田練塀町３）玄関付近。
②３１日１６時から２１時、８月１日も同じ時間で、近所の三井記念病院隣の和泉公園（千代田区神田和泉町）で秋葉原東部納涼大会があり、東北復興祈願物産市に出店。
のぼり、横断幕、価格表、パンフレット、レジ廻り、ビニール袋、スタッフ用はっぴ、首下げ用身分証・・・。７業者から、３００円、５００円、１０００円、１５００円、３０００円など単品に、パックの商品も用意、今回は、常温で販売できる「食材」。期間中売上目標は、「勝手に」２０万円としました。「潮風のハーブティ」生産者、富士子さんや、「魚加工」智恵子さんも宮古から遠路上京。

７月２２日（木）

朝、宅配便第１便、「横断幕」「のぼり」届く。月末の秋葉原イベントを皮切りに、様々なイベントで使う。

７月２７日（月）

「体感ツアー」の疲れも残る中、朝から新橋駅。２３階で「さんりく未来」の会議。４社９名、２時間半、多様な論議。展望、戦略と、当面の具体策、戦術。おおよ そ、９月末までに各役割の担当ごとに深化させ、１０月に全体の整合性を合わせ、行政ほかにもプレゼンする方向へ。

７月２９日（水）

朝から、７月３１日（金）８月１日（土）の岩手物産販売イベント用の商品やリーフレットが届く。これまで、玄関を占拠していた「支援物資」が茶の間に追いやられ、玄関は、今や「商品」などの段ボールに。

７月３０日（木）

午後３時半、和光市駅で、宮古からの２人と合流。

１　カフェ「ツーテンジャック」

和光市内のカフェへ。

・オーナー二戸さん

女性オーナー二戸さんは、今年３月和光３・１１を忘れないコンサートに合唱で参加、昨年 11 月からの店での「石巻交響楽団＆合唱団遠征費用募金」や、「和光市近隣に避難している被災者支援募金（さくら募金）」の募金箱を置き、支援活動にも協力的。

さらに、古舘さん同様、十数年前に 50 代の夫に先立たれ、土地探し、店舗設計し、起業。

また、メインの飲料はコーヒーだが、和光市内の広い土地で栽培されているハーブを使って、「ハーブティー」や「冷水」を提供している。

・ハーブティ試飲―互いの身の上話のあと、実際にハーブ入りのポットでの冷水や商品としてのハーブティを試飲。

・カフェ経営ほか―将来、古舘さんのハーブ園にカフェを開設するとしたら、などの仮定で様々な話。最後に、ぜひ宮古のハーブ園を見に行きたい！

２　レストラン「クロシェット・ドゥ・ボワ」

６時前、今度は、音楽レストランのオーナー自宅で面談。

ハーブティーをメニューに加えて頂けるかどうか、折衝。
ここも、カフェ「ツーテンジャック」同様、今年３月和光３・１１イベントの「さくら募金」や「遠征費用募金」では、毎週土曜日の店内ミニコンサートなどで積極的にお客に募金呼びかけ、多額の募金集めに協力協力頂いた先。
試供品を渡し、テスト頂くことになった。

３　宿泊

夜、９時近く、八王子市北野の空きマンションへ。所有者Kさんは、2011 年７月以来、現在まで、約 50 か所の仮設訪問や和光３・１１イベントなどほぼ全ての支援活動で、齋藤とペアで企画、人集めなどを全て無給、自腹で行ってきた「３１１　有志」（齋藤が世話人）の「同志」。
今回も、３泊４日の宿泊料、夕食、朝食を無料提供。
行くとすっかり夕飯の支度も出来ていて、即乾杯！

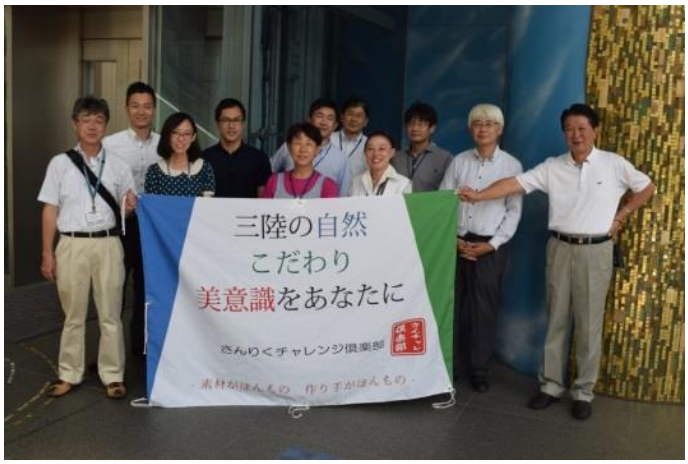
７月３１日（金）
①富士ソフト秋葉原本社玄関「三陸・西会津企業マルシェ」

朝６時半。マイカーで八王子出発。８時４０分、秋葉原駅、徒歩２分の富士ソフト秋葉原本社へ到着。汗だくで、車に満載の荷物を運び、開 店１１時までになんとか、「店」を作る。

三井住友海上、PwC,NEC ﾈｯﾂｱｲｴｽグループ、そして富士ソフトの連携企業社員たちが集結。

隣では、富士ソフト社が３・１１以降、風評被害で苦しむ西会津支援をしてきた経緯から、西会津の野菜販売部隊。さらに、その隣には、富士ソフト社が２人の社員を行政に出向させている岩手県田野畑村のアイス、ぶどうジュース販売部隊も、勢揃い。

午後２時までの３時間、全員温室状態の暑さの中で、汗だく。ＰｗＣの５人。若い全員が英語堪能。中国人２人、オーストラリアで育った帰国子女などが、大活躍。試飲、試食を進め、外国人とみると、すぐに流暢な英語で話しかけ、ほぼ通りかかった全員が買っていった。
そして、なぜか美人３人組が仲良く「シェアしましょ」などと買っていく。
最後には、宮古支部メンバーのいた２０年前の上司が、独立起業して千葉県柏で社長。爆買いしてくれ、一同拍手！！！



途中で帰ったメンバーもいたが、最後に残った全員集合写真。暑い中、昼食もとらず、本当にお疲れ様でした。

②秋葉原東部納涼祭

我々３人は、休む間もなく、次の会場、徒歩１０分ほどの「和泉公園」へ移動。

４時開始。富士ソフトが町内会の一員として１０数年近く前、本社が出来て以来参加し、子供たちに大人気なのが、「紙飛行機作り」と、「ロボットバトル」。子供たちの長蛇の列。

昼間の我々と一緒に販売した西会津、田野畑の売り場と並んで出店。６時から祭がスタート。

そして、突然、「洋野町のピンバッチ下さい」と名指しで来店の男 性。５１００円分、爆買い。聞けば、「明日、久慈であまちゃんイベントがあるんです。」。もう朝ドラで北三陸の魅力に取りつかれ、深夜バス往復で、「久慈 以北」のみを毎回訪れる、という「オタク」さん。そして、一時間後、今度は、「ピンバッチとシャツが欲しいんです」と男女２人組。二人は、共通の趣味で知 り合った、という、「洋野」「久慈」愛好家。「さきほど、男性が爆買い」というと、「写真見せて」。そして、「あれ？吉田さんじゃない。彼も行くんだ。」 と。でも、どうしてこのイベントを知ったのか、と聞くと、携帯の画面。「これです。」。このイベントの投稿が掲載されていた。

盆踊りも始まり、途中で、「東北の物産コーナーに皆さんを紹介します。」と雛壇に宮古からの２人も。それぞれ持ちこんだ商品をＰＲ。来店する客は、昼間のようにまず、３人組。

それ以外は昼には無かったご夫婦、そして子連れ。
　浴衣姿の踊り手の年配者、そして近所の「水商売」の女将たち。
多くは「女性」。冷たいハーブティの「試 飲」で足を止め、富士子さんと話し込む。そして「ついでに」、乾きものなどを買うパターン。夜９時終了。
宮古２人と途中から応援に来てくれた「３１１有志」の仲間で宿提供者の３人は電車で、私は、残った商品を積み直したマイカーで自宅１１時着。

《連携企業社員のコメント》

今日は、東北復興支援活動を推進している「さんりくチャレンジ倶楽部」の企業マルシェに参加しました。お昼は、秋葉原にある富士ソフトの企業マルシェ、夕方は秋葉原東部納涼大会へ行きました。企業マルシェでは、慣れない販売員を経験・・・呼び込みはたどたどしく、押しは弱く、なかなか売れません でした。しかし、2000 円のおつまみセット（宮古のこだわり商品詰め合わせ）を二人の女性がダンナ様のためにと買ってくれ、完売した時には感謝・感激。 周りからも拍手が起きました。
　屋内の企業マルシェと言っても、直射日光が降り注ぎ、立っているだけで汗が滴りました。そんな中で、冷たい「潮風のハーブティ」の試飲が好評で、それを 呼び水にお客様が立ち寄りました。岩手から来た生産者のふじ子さんは気配りの人で、冷たいハーブティを何杯もスタッフに振舞ってくれました。宮古の人は優しいなぁ。
最後に、スタッフの知人が、机の上の商品を全部買ってくれ、またまた大拍手。とても楽しいマルシェになりました。夕方は、納涼まつりに出店し販売。私は 途中で退座しましたが、なかなか売れなかったポロシャツが売れ、これまた感激。「さんりくチャレンジ倶楽部」のスタッフや協力企業の皆さん、お疲れ様でした。

８月１日（土）

２日目。結果としては、前日の半数程度の祭参加者で、なかなか店の前を通りかからず、人混みに「試食」「リーフレット」持参で打って出た。また、８時からは、「閉店セール」も実施。２日間で、持参した商品の食品は約半数が売れた模様。

１　午前は自由時間

前日、古賀さん宅で２人は２泊目。午前中は、古賀さんの案内で、高尾山見物でリフレッシュ、とか。私は、前日のレポートや他用で忙殺。

２　開店準備

午後４時からまた公園のテントの中で、「お店」設営してたら、なんと富士ソフトの佐々木さんから、皆に差し入れの生ビール。運転する私以外で、「乾杯！」（帰り、飲酒運転取り締まりで、呼気検査された。）

《陳列商品の一部》

今日は、昨日横にいた西会津の方々のスペースが空いたので、持参した商品もほぼ全て陳列出来、「店構え」もそれなりに出来た。

３　開店

①「ハーブ試飲」が決め手

前日より大きなスペースが取れたので、テント内に椅子を並べ、「ハーブティ」試飲を
ゆっくり味わってもらい、ほかの商品の試食、そして販売への案内をする、という流れが一定の効果。

②活躍した地図

活躍したのは、ボードに貼った「地図」。岩手県や宮古市を知っている人はわずか。

③強力な助っ人

ＰｗＣの久藤さん。４月のＮＥＣﾈｯﾂｱｲｴｽ本社での「企業マルシェ」でも活躍してくれた。客が寄りつかないとみると、お盆に「試食」「試飲」カップを並べ、紹介リーフレットと商品も持って、来場客を縫って歩き、赤ちゃんには手を差し伸べ、笑顔で「即決」または右手で左手で「店」を示し、誘導、または即売。

④今日も知り合いが。

前日の元上司や、瞬間冷凍会社営業などに続き、カードを見に来た女性。デザイナーの親の知人だったか。

⑤「家族」の参加

２日間、スタッフの家族も様々な場面で参加、お手伝い頂いた。特に富士ソフト、Ｓさんのご家族は総出。奥さん、そして長男、次男。てっきり私は、西会津からきた方かと思っていた。

⑥「高額商品」お買い上げ

２日間通じ、単品で最も高額なお買い上げは、洋野の「前垂れバック」９８００円。前日に来て、縫い目や裏地などを入念に見ながら、「今、財布無いの。それにほかの在庫があるんなら、明日も来るから、見せて。」。約束通り、財布持参で見え、ほかの食材も含め、お買い上げ。

⑦「閉店セール」

８時近くになり、「ラスト！」とアナウンスの「東京音頭」がなぜか各町内ごと？で繰り返す中、「閉店セール　在庫一掃」と書いた画用紙をもって、人混みを縫って、数人ずつの「団体」に声かけ。「あそこに店がありますが、宮古まで送り返すのも寂しいので、どうぞ。タイムセールやってます。」。ほかの店が撤収し、こちらも荷造りしている最中にも、「駆け込み需要」。これで、「完売」とまではとてもいかないが、一定の金額にはなった。

⑧「商品」返送

最後に、またマイカーに段ボールを積み込み、翌日、朝、コンビニで返送。当初、我が家に宮古から段ボール１４箱、洋野から１箱届いたものが、８箱、と半減して返送。
一応、会計など残務はあるが、イベント実務は終了した。

８月２日（日）

１１時。有楽町の交通会館で宮古の２人と待ち合わせし、北海道、秋田、大阪、全国商工会など各県のアンテナショップを案内。そして、５階の「ふるさと回帰支援センター」へ。ここには、長崎、福島、富山、山梨・・様々な県と市へのＵターン、Ｉターン情報がある。４時からの「岩手県葛巻町説明会」の下見でもある。

ちょうど、盛岡出身の岩手県職員や、このセンターの雫石出身の岩手担当がいたので、色々意見交換。職員は名刺を忘れ、担当は４月入社。月に多くて２０件ほどのＵ・Ｉターン問い合わせがある、という。
一方、福島県のコーナーもあり、そこにいた職員が、３ヶ月に一度程度浦和で開催される東北から埼玉県への避難者支援の「福玉会議」で同席した顔見知りだったので、話し込む。
また、秋葉原のイベントで隣り合わせになった「西会津」情報が気になった。
すると、急に「さくらんぼ娘」。山形イベント「花笠音頭」が始まった。
１２時すぎにセンターを出る。
このあと、久しぶりにおにぎり以外の「まともな」昼食を食べることができた。
東京駅へ移動。ここで、３泊宿泊、朝夕食、そして販売まで無償提供で散々2 人がお世話になった古賀さんとお別れ。だが、新幹線が１時間半遅延のアナウンス。隣の大丸で、一休み。３時半になって私も２人とお別れ。
また、徒歩で１０分ほどの有楽町、「交通会会館」へ逆戻り。
　途中、福島県のアンテナでは、「ミスピーチ」が福島市の桃の販売、茨城県のアンテナは静まり返り、沖縄県のアンテナでは、左はビール、右は泡盛の「即売」で人だかり。４時５分前、予約していた「岩手県葛巻町説明会」に到着。

★「岩手県葛巻町Ｕ・Ｉターン説明会」★

①岩手県の紹介

夏祭りの中でもギネスブック入りの 3000 人以上のの太鼓で練り歩く盛岡の「さんさ踊り」が有名。８月 1～4 日開催でまさに今。広さはほぼ四国。首都圏の東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、そして山梨県の一部の広さに、練馬区と杉並区合わせた 130 万人が暮らす。

新幹線の駅も８つ、と他県を圧倒。花巻空港からは北海道、名古屋、大阪、福岡へ。
　総理大臣 4 人は山口県と並ぶ日本一。有名２刀流プロ野球選手や女性誌モデルも。

文芸・漫画の世界も「ファンタジー」で共通。遠野の座敷わらしも。
　自然が豊か。岩手山。盛岡市内の川にも鮭が遡上。
ホタルも群生、宮古市浄土ヶ浜。実りの遠野、そして釜石の紅葉。冬は樹林。
　一方、トヨタ自動車アクア製造工場も進出。世界３割シェアのコネクター製造会社も。
現在、素粒子研究施設、リニアコライダー誘致中。以上「岩手県の魅力」でした。

②葛巻町の紹介

地名も知らなかったが、７０００人の山間部の町。だが、北三陸の隣。

酪農と林業（ミルクとワイン）の町。

地元高校生も、ミルクとワインを求め、ドイツへ。

　ともかく「若い世代、夫婦に移住して欲しい。」と各種支援策

説明者が代わり、「子育て支援」の説明。

毎年３０人の赤ちゃん。地域の「相互扶助」は３・１１でも。

都会には無い、「地域の子」。お産も「安心。」

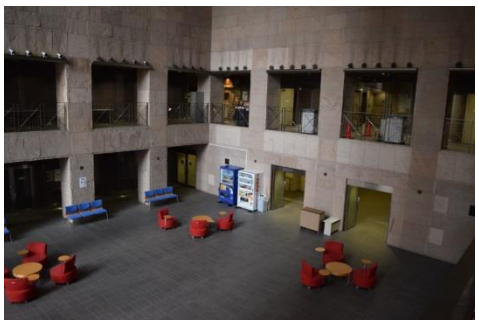
子育て支援も色々。ヴァイオリン教室もあります。

最後に、今日の目玉、移住者の話。と思ったら、本人健康不調につき、奥さんが代役。

本人は６１歳。いわき市出身の船乗り。農業や子供たちの英語塾で生き生きしている、と。

　この説明会の最中も、ずっと２組の「相談者」が移住について担当者と一対一で話し合っていた。帰りに岩手県の事業担当者清水さんと名刺交換。社団代表と面識あり、と。

８月１２日（水）　「さんりく未来」代表との打ち合わせ

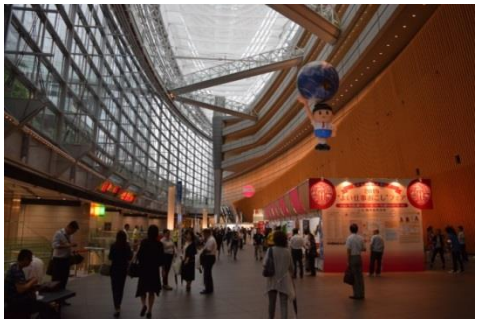


１０時からカザルスホールで「さんりく未来推進センター」打ち合わせ。これからの活動や組織の役割分担など２時間近く論議。私の果たすべき仕事もいくつか明確になり、関係筋と個別打ち合わせ必要。

８月１９日（水）　「さんりく未来」連携各社合同会議

午前は、高層ビル群の間を通って、ベイブリッジ、浜離宮を眼下、東京タワーを遠方、遠くの空に旅客機、に２時間半の「さんりく未来」連携各社合同会議。「戦略」「構想」「役割分担」など論議。各論には至らず、時間切れ。驚いたことが２つ。常に窓口となって支えてくれていたＮＥＣネッツアイのひとり、「９月で退職します。」。ー 同、エ～！そして終わって、昼食時、「え？齋藤さんの出身高、父と同じ、です。」と唯一の同社の女性参加者。毎年２００人強しかいない卒業生。世間は狭い。

９月８日（火）「よい仕事フェア」（千代田区有楽町）



４時すぎに終わり、今日の本題。東北支援をサブタイトルとした「よい仕事フェア」。城南信用金庫主催。全国５０の信用金庫も協賛。北海道から沖縄までの中 小零細業者のブースや名産品など並び、各地の信用金庫職員も 1～3 名貼りついていた。

まずは福島県コーナー。４０年前から少なくとも１０回近く通った「二岐温泉　大丸あすなろ荘」のコーナーがあった！しかも、名物社長、全国秘湯の会会長も来ていて、暫く湯治、混浴時代を懐かしんだ。浪江焼きそばなど売り切れ。

つぎに岩手コーナー。なんと、先にご紹介した宮古市の山田湾牡蠣ホタテ養殖業中村さんがカラーのトップ！さらに、出展者に中村さんと同じく、わが「さんりくチャレンジ倶楽部」の「古須賀商店」。本年６月、工場でご家族ともお会いしたので、覚えて頂いていた。売れ行きを聞くと、「わかめ佃煮」は完売したが、　「熊之助」はいまいち。やはり、冷蔵庫がないので、常温ものばかりで、苦戦のよう。
このほか、岩手県からは、大槌、一ノ関、花巻、盛岡などからも７店が出店。
最後に宮城コーナー。東北６県商工会にご挨拶。三陸では、気仙沼、石巻、南三陸町などから出店。

まず会場スタッフは数十人以上の主催、城南信用金庫職員。この反原発の一貫した経営姿勢は多くの人に共感を呼んだ。で、新入社員風３人と歓談、パチリ！そ して、マスコミでは異例な、反原発の旗色を鮮明にしている東京新聞もコーナー設置。
帰りにもらった東京新聞夕刊トップは「安倍無投票当選」の報。７派閥大政翼賛会化。

９月１０日（木）埼玉県内「自然食品店」訪問

東部東上線霞が関駅近くの商店街、川越市役所そば、そして、ふじみ野の３店の「自然食品販売店」を訪問。「さんりくチャレンジ倶楽部」のリーフレットと、 数点の商品見本を持って、それぞれのオーナーに販売委託できるかどうか聞く。

①大橋自然食（霞が関町）

②菜門（川越市）

③SUN SMILE（ふじみ野市）

３人共通の結論は、問屋や協同組合を通じて仕入れているので、個別業者との直接取引は、面倒でやりたくない。また、岩手産、三陸産、というと、放射能風評がいまだ根強く、線量検査をクリアすることが条件、あとは一回の輸送ロットが 多すぎると、売り残すし、少ないと輸送コストで高くなるので、ここをどうするか、ということ。いずれも、４０年、

２５年、２０年近くの歴史ある店なので、 言うことに重みがある。３人とも、大変親切で、協力的ではあったので、今後もアドバイスは頂けることに。

９月 11 日（金）月命日　埼玉県内「自然食品店」訪問

①PARAISO（入間市）

最初は、民家を改装したカフェ。「私の気に入ったものしか置かない」女性主人と、30 分。食品は賞味期限もあるので、衣類などなら、の可能性。「さんりく チャレンジ倶楽部」リーフレットを 10 部ほどおいてくれる。「ここ以外だと、近所には自然食品の店はないけど、ジョンソンタウンならあるかも。行って見た ら？」。はい。

②ジョンソンタウン（入間市）

ジョンソンタウン。以前、米軍キャンプ跡を生かしたアメリカンな街。入間市の入り口にある。これまで前の道路を通り過ぎるだけだったので、お目当ての店を探す。しかし、犬猫用の店やカフェ、歯医者、居酒屋、ラーメン屋などはあるが、肝心のオーガニックを扱うような店は無く、退散。

③自然屋（入間市）

そのまま、所沢へ入る手前で、ネットで調べた店の名前にはない「自然食品」の店の前を通過。慌てて、100m先でUターン。まだ、開業して２年も経たない 店だった。30 代半ばの夫婦。５歳の子供がアレルギーだったので、こんな店があったら、と始めた。やはり、全て問屋経由の品揃え。「同じ品が 10 個来た ら、売れ残るので、少量多品種の送付ができれば扱えるかも。」。岩手県の「ゴマ」などもあるが、やはり放射能のことを気にするお客には売れない。親切に、 秋津でのイベント会場などを教えてくれるなど、20 分ほど話していると、これから配達の時間。野菜やパンをかごに一杯乗せて、お子さんとお出かけ。留守番 は夫。失礼しました。

④健康ハウス（所沢市）

３軒目。所沢市内の裏通り。品揃えは、これまでの店で一番。まるで、普通のスーパー。創業して 25 年近くになる、という。これまでの店とは、各種「健康を害するモノの警告」などは貼ってある。店長と話すが、仕入れ権限はなさそうで、ひと通り話して退散。

９月１２日（土）都内「復興支援ショップ」訪問

①「石巻マルシェ」（大田区大森）

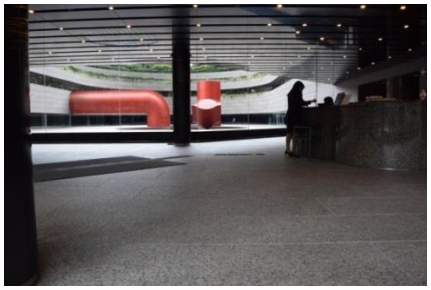
大森の「石巻復興マルシェ」へ。環状７号線が混んで、１時間 30 分近くかかった。着くと、今日は、子供たちの売り子体験イベント。旧知の代表村上夫妻 に挨拶もそこそこに用件２つを伝え、「岩手さんりく産の商品も置ける可能性」を確認。駐車違反の切符を切られる前に、さっさと退散。

②「ふくしまオルガン堂」（渋谷区下北沢）

次は、下北沢の「ふくしまオルガン堂」。ここでも顔見知り。ここは有機農法のＮＰＯなので、岩手の産物を置く訳にはいかない。しかし、色々話していると、ヒントがいくつか。今度はちゃんとパーキングに入れたので、安心してコーヒー飲んで、会津の手作りくるみゆべしや、揚げせんべいを買って、福島民友読んで、１時間 以上。

９月１４日（月）

①三井住友海上本社（中央区神田駿河台）で打ち合わせ



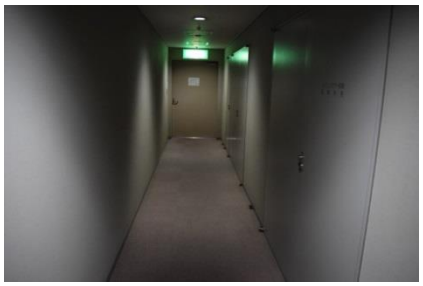
本社本館へ。１１月１１日の月命日に、ここの食堂横で、「岩手物産フェア」を開催するための申込みと打ち合わせ。関係会社部長と担当者。雑談７割、本題３割の１時間近く。

②自然食品店ＧＡＩＡ（中央区神田駿河台）

次にすぐ近くの「自然食品店」へ。今日の３つ目の目的。４０代後半かという代表、次々に入ってくる女性客のレジなどしながら、「２３年やってきたけど、本業は卸し。他にも店はあるけど、ここは客層が変わった。オリンピックまでにいつクローズするか、考えてる」「昔、２０代、３０代のＯＬなどの常連客も、だんだん来 なくなったし、住民も高齢化して、若い人が済んでいないので、御茶ノ水のこの辺はどんどん商店がいなくなっている」・・・。店の前で、「千葉から来た自然食品のパン屋です。」。さばバーガーと、食パンを買った。家で、おやつ代わりに息子たちが食べてみた。「美味い。でも４５０円か。」

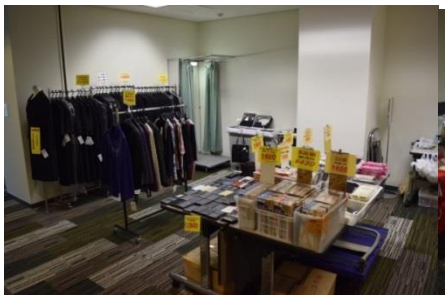
９月 18 日（金）

①社団本部打ち合わせ（中央区神田駿河台）



午前中、「カザルスホール」の迷路のような楽屋跡で打ち合わせ。主に、１１月の３大販売イベント①１１月１日よりオープンの金沢八景「牡蠣小 屋」②１１月１１日（水　月命日）三井住友海上本社本館食堂前③１１月１５日（日）和光市民まつり「東日本大震災コーナー」、での夫々の三陸物産販売について。これに写真展など絡ませられるか、など。

②三井住友海上本社（中央区神田駿河台）



三井住友海上の実地検分。販売コーナー２か所、地下２階の商品搬入駐車場、搬入エレベータなど。エレベータ脇の食堂スペースには、「新卒採用イベント」参 加者用弁当。一階で、午前中の「セミナー」が終わった黒い上下の背広やスーツの男女がぞろぞろ。

９月 22 日（火）岩手県一戸町「アンテナショップ」（横浜市元町）訪問

神奈川県内唯一の岩手県三陸物産販売ショップがある。オーガミックを売り。そこで、また、「飛び込み」。社長は不在だったが、岩手県出身で、ＷＥＢデザイナーだった、という女性店員から、色々聞いた。宮古や陸前高田 などのものは少なく、やはり、一戸町とその周辺からの物産が主。２０分ほど話し込んでいる間に、バラバラと女性客が入ってきて、常に店内には数人の客。平日は、周辺の高級住宅住民、休日は観光客で、結構賑わっているようだ。

９月２７日（日）さんま祭り（新座市）

志木から高円寺へ向かう途中、大泉学園通りを走っていると、なにやら行列。旗には、「さんま」の文字。慌てて、近くに停車。そう、そういえば、この小さな、脇道の新座市栄４丁目商店街には、「復興支援の店」があった。狭い道路の両側には、色々な店が並び、入口から大混雑。警官まで見回り。奥へ行くと、煙 モウモウで、さんま、焼いてました。「目黒のさんま」が有名ですが、ここでも 5000 匹！と。

今年が第４回。明確に「復興支援」と「町おこし」の両輪。そして、焼いている前の肉屋が、どうも「本部」らしい。覗くと物産展。全部「石巻産」のよう。そして、売っている人を見て、「あれ？」。どこかで見た顔。 近寄ってご挨拶。すると、やはり。一度、銀座の復興カフェで名刺交換した石巻の山徳平塚水産会社社長さん。お互いに「なんで、ここで？」。最寄駅、大泉学園駅から もバスで 15 分はかかろうか、という埼玉の大変ローカルで、「不便」な街。暫くこの商店街の暖かな人たちの話や、大森の石巻マルシェ夫婦の話やらで雑談。 ひとつ 250 円、４袋で 1000 円の「酒のつまみ」を買って、なんだか、大変得した気分。次を急ぎ、退散。しかし、まだ、出口のさんま行列はまだ続く。

以　上